

第2回中心市街地グランドデザイン戦略会議 議事録

1 開催日時

令和2年2月19日（水）10時00分から

2 開催場所

小牧市役所 本庁舎6階 601会議室

3 出席委員（名簿順）

山下史守朗 小牧市長

大塚 俊幸 中部大学教授

生田 京子 名城大学教授

鶴田 佳子 岐阜工業高等専門学校教授

名和 千博 小牧商工会議所地域活力向上委員会委員長

加藤 紀文 小牧にぎわい隊理事

ファシリテーター 水野 嗣則

事務局

都市政策部 都市政策部長 前田勝利

都市政策部 都市政策部次長 鵜飼達市

都市政策部 都市計画課長 永井浩仁

都市政策部 都市計画課 都市計画係長 馬庭貴彦

都市政策部 都市計画課 都市計画係主査 赤堀真耶

都市政策部 都市計画課 都市計画係技師 白木裕之

傍聴者 3名

4 会議内容

1 議題

（1）第1回中心市街地グランドデザイン戦略会議の意見の確認について

（2）中心市街地の課題について

（3）その他

【都市政策部次長】

定刻となりましたので、ただいまより第2回中心市街地グランドデザイン戦略会議を開催させていただきます。

本日は、委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本会議の進行役を務めさせていただきます、都市政策部次長の鶴飼でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の日程につきましては、お手元の会議次第のとおりであります。

それでは、会議に先立ちまして、山下市長からご挨拶を申し上げます。

【山下市長】

改めまして、おはようございます。

皆様、大変お忙しい中、第2回の中心市街地グランドデザイン戦略会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

前回の1回目の会議では、中心市街地の現況ということで委員の皆様方から大変貴重な意見を頂戴したところであります。お礼を申し上げるところでございます。

さて、先週、小牧市の新しい最上位計画、まちづくり推進計画を公表したところであります。これは、これまで第6次小牧市総合計画新基本計画に基づきましてまちづくりを進めてまいりましたけれども、自治基本条例を制定いたしまして、この条例に基づく初めての基本計画として策定させていただいたものでございます。

都市ビジョンを3つこれまで掲げてまいりまして、「元気創造都市」というのがありましたけれども、元気というのは人の元気とまちの元気を合わせた意味で使っておりました。ただ、ちょっとわかりにくいという声もありましたので、字句の整理をしまして、新たに「健康」ということを柱にして、「健康・支え合い循環都市」とさせていただき、また、まちの元気については「魅力・活力創造都市」ということでビジョンを置かせていただきました。もう1つ、「こども夢・チャレンジNo.1都市」という、この3つを都市ビジョンとして掲げて、まちづくりの機軸としてまいりたいと考えております。

このまちづくり推進計画の市政戦略編におきまして、こうした都市ビジョンを機軸としてまちづくりを進める上で、限りある行政の経営資源を無駄なく最適に配分しながら、市民の皆様とも協働しながら、効果的・効率的で持続性の高い自治体経営を推進してまいりたいと考えております。

そして、市政戦略編、優先的に経営資源を導入して強力に進めていくという事業群を掲げておりますけれども、その1つとして中心市街地の魅力とにぎわいの創出を位置づけているところであります。

市といたしましても、今、人口減少の局面に入ってきている状況の中で、やはり若い世代や子育て世代が住みたいと、働きたいと、そして訪れたいと思っただけのような小牧市を作っていくということ、非常に重要だと考えております。

今、この戦略会議とは別に、東部まちづくり戦略会議も開催しているところでありますが、特に小牧市の中心市街地、私としては、中心市街地に住んでいる方だけではなくて、市全体の中で核となる、そしてまちのシンボルとなる、全ての市民の皆さんにとって核となる中心市街地が重要であると考えているところでありまして、そうした中心市街地の再構築・活性化を図ってまいりたいと

考えております。

ラピオの再構築とか幾つかの事業を進めておりますけれども、そうした流れの中で、さらにそれを再スタートして未来のビジョンを描いて、さらに強力に進めてまいりたいと思っておりますので、どうか皆様方から、多方面からの視点で、それぞれのお立場や見識に基づきまして忌憚なくご意見を頂戴できればありがたいと考えております。

本日もどうかよろしくお願い申し上げます。

【都市政策部次長】

それでは、次第の2、議題に移らせていただきます。

以後の議事につきましては、ファシリテーターをお願いしております、水野嗣則様をお願いしたいと思います。水野様、よろしくお願いいたします。

【水野ファシリテーター】

よろしくお願いいたします。

早速でございますが、議題（1）第1回中心市街地グランドデザイン戦略会議の意見の確認についてを議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

【都市計画課長】

都市計画課長の永井と申します。よろしくお願い申し上げます。

それでは、議題の「（1）第1回中心市街地グランドデザイン戦略会議の意見の確認について」説明させていただきます。

資料2をお願いいたします。

この資料につきましては、12月2日に開催されました第1回会議における主な意見をまとめたものとなります。

委員からいただきましたそれぞれの意見につきまして、表の右側に記載いたします「視点」別に整理をさせていただいております。

視点の内訳といたしまして、「定住」「空間」「資源」「来街者」「情報」「商業」「ヒト」の7つとし、各意見を主に該当するものに分類させていただきました。

なお、丸の中に記載しております番号につきましては、後ほど議題の（2）でご説明する資料3とリンクしております。

また、それぞれのご意見に対しまして参考となる資料の番号を右欄に記載してございます。

説明は以上とさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

【水野ファシリテーター】

ただいま事務局より説明がございました資料2の内容につきまして、ご意見等はございますでしょうか。

ご意見がないようであれば、次に移ります。

続きまして、議題（2）中心市街地の課題についてを議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

【都市計画課長】

それでは、議題（２）「中心市街地の課題について」説明させていただきます。

資料３をお願いいたします。

左側のブルーの表をご覧ください。

資料２で整理させていただきました委員の皆様からのご意見を、７つの視点ごとに、良い点（GOOD）とよくない点（BAD）に要約しております。中心市街地の今後として、GOOD の点を伸ばし、BAD の点を改善することなどが課題と考えられます。

そこで、右側のオレンジの表をご覧ください。

本日の議論のテーマやキーワードとなります。上から順にご説明申し上げます。

定住の視点では、若年世代、まちなか居住というキーワードから、住みやすさ、暮らしやすさといった若年世代の定住促進、マンションなどの立地促進などについて。

空間の視点では、心象距離、密度感、居場所といったキーワードから、小牧駅前広場のあり方、小牧駅前線（シンボルロード）のあり方、公園（みどり）の整備、駐車場のあり方、イベントスペースなどの確保、現図書館跡地の活用、柔軟な道路・広場の占用・使用などについて。

資源の視点では、心象距離、魅力、歴史資源、文化財、信長といったキーワードから、目的地（文化施設等）や飲食店・物販店のネットワーク化、信長など歴史を活用した取り組み、空き店舗・空き家・空き地の活用方法などについて。

来街者の視点では、滞在時間、周遊、魅力といったキーワードから、交通結節機能の充実、歩いて楽しいまちなか周遊、滞在時間の創出、近隣店舗や地域資源への誘導などについて。

情報の視点では、SNS といったキーワードから、効果的な情報発信の手法、情報発信の体制づくり（ネットワーク化）などについて。

商業の視点では、商業振興、後継者といったキーワードから、起業のための環境整備、効果的な補助制度（インセンティブ）、一定規模の商業集積などについて。

ヒトの視点では、仕掛人、合意形成といったキーワードから、協働の体制づくりなどについて。

なお、それぞれのテーマに関連する参考資料の番号を表の中にお示ししておりますが、事前に資料送付させていただいていることから、参考資料の説明は省略させていただきます。

説明は以上となります。

よろしくお願いいたします。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

ただいま、事務局から７つの視点、「定住」「空間」「資源」「来街者」「情報」「商業」「ヒト」についての説明がございました。

議論するに当たり、それぞれ関連してくると思いますが、便宜上関連が強いと思われる視点を中心に、３つほどのカテゴリーに分けてご意見をいただきたいと思います。

１つ目に、「定住」「空間」から、いわゆる『空間整備・活用』というカテゴリーにおける課題、２つ目に、「資源」「来街者」「情報」から、いわゆる『誘客・集客』というカテゴリーにおける課題、３つ目に、「商業」「ヒト」から、いわゆる『ヒトづくり・合意形成』というカテゴリーにおける課題を中心にご意見をいただきたいと思います。

まず最初に、定住や空間といった視点から「空間整備・活用」の課題について、委員の皆様からご意見を頂戴したいと存じます。よろしくお願いいたします。

【大塚委員】

空間整備に関する定住、マンションなどの立地促進についてです。駅前のマンションは、名古屋圏郊外のどこの駅前を見ても立地が促進されており、そこへ新しい人が住んでいます。実際に人口として増えるので、やはり都心居住というのは重要だと思いますが、ただ単にボリュームとして人口が増えても、それがまちをつくる原動力になっていくのかが重要だと思います。

往々にして、マンションに住んでいると鍵一つで管理ができたりして、どちらかという地域とのつながりをあまり好まない人たちが住んでいて、あまりまちの魅力づくりというか、まちづくりの担い手にはなっていないと思います。都心居住を進めていくのと同時に、やはりコミュニティ形成は結構重要です。人が住んでも、その人たちが自らのまちとしてまちづくりに参画して何かの担い手になっていくためには、やはりコミュニティが重要かと思います。単なる空間整備でハードを用意して、量としては満足しても、それはやはりちゃんとその後のまちづくりにつながっていくところまで考えていかないといけないという印象を持っているのが1つです。

もう1つ、空間のことでいきますと、今回、参考資料とか豊富な情報を提供していただいて、いろいろ考える材料も提供していただきました。これは次の資源の中に入ってくるのかもわかりませんが、駅前のほうで新図書館の建設が進められており、その後の既存図書館の跡地をどう活用していくのか。ここがやはりいろいろな面で、駅前と小牧山周辺との中継点として一番重要な部分であり、ここの使い方が今後のまちをどうつくっていくかのポイントになってくるのではないかと感じています。どうしたらいいかという答えまでは、今はまだ持っていません。

以上です。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

そのほか、委員の皆様からご意見はございませんでしょうか。

【生田委員】

空間整備のところで、未来館とか図書館とか、駅前のいろいろなイメージの整備の方法が拝見できますが、全体的にどこを歩いていただく道にするのかという話がややまちまちな印象がして。

例えば、新図書館では、私もこれに審査員としてかかわった者の一人ではありますが、歩専のほうに、かなり歩行者の動線が誘導されるような計画になっています。それはこども未来館につながる形になっていて、駅前広場としてののにぎわいはそこで生まれるかと思うのですが、シンボルロードから小牧山までににぎわいを持たせたいとなると、シンボルロード沿いに対して、これから建設されていくであろう計画建物が顔をつくる、例えばシンボルロードに対して開かれた、あるいは人がたまるようなスペースが設けられると何か事業者にメリットがあるとか。シンボルロードが人を歩かせる道であるとするならば、そこへ向けた目標や指標などがあると、だんだんに街並みがそろってくるのかなと思いました。

新図書館のところで歩行者専用道路と車の道路とやや顔が二面化しているところもあって、どこに人の動きを集中させたいというビジョンが明快になってもいいかなと思いました。

以上です。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

そのほか、委員の皆様、ご意見いただければと思います。

【山下市長】

今2つの意見、それぞれいただきました。

道の空間というか道の関係、生田先生からお話があったんですけど、確かに今、駅前のシンボルロードは駅から小牧山北まで、ようやく今年度整備が目処がつくという状況で、通過交通がさらに増えるだろうなと思っています。

ただ、やっぱりにぎわいという意味では、市が今までやってきたのは、まずはこの中心市街地に来る目的を作らなきゃいけないということで、図書館、未来館を中心に公共でできる整備はきちっとやっていこうと、高度利用を図っていこうと、魅力ある施設を配置していこうといったところでやってまいりました。

今まで来なかった人たちに、新たな人たちにここに来てもらうというところまでは今想定しています。その上で、周りにそれをどう波及させていくのかということがこの次の段階だと思うんですけども、これは前回も申し上げたんですけど、民間の土地、民間の部分はなかなか行政が直接的には手を出せないというところがあって、行政がまた広く土地を買って再開発するというところまで踏み込める時代というか状況ではない感じを持っています。これから周りへの波及は民間とどう連携していくのか、どういう手法が一緒に考えられるのか、このあたりが今の課題だと思っています。

生田先生からお話があったように、そういった中で、どこの道を歩いてもらうのかということはある程度想定しなきゃいけないだろうなとは私も思います。そうした中で何らかの店舗が張りつくようなインセンティブとか、整備が必要であれば道路の整備、いろいろとそういった中でも想定しながら進めていかなきゃいけないのかなと思います。

ただ、現状、今ご指摘いただいたようにまずこの新たな核を中心としながら駅と小牧山があって、中心市街地はどこの道を想定していくのかというのは確かに考えていかなきゃいけない。ただ、それは民間の方々も関係しますので、こうした議論を通じながら、市としてもそのあたりは想定していくべきなのかなと思います。

【加藤委員】

今の意見で、まだどこかということを決めていないようなことを言われたんですけども、シンボルロードはやっぱり小牧駅から小牧山までの道としてずっと定義されているわけで、そこをやっぱり生かすべきだということで。

新図書館の北側の歩専っていうのは、どうしてもラピオでどん詰まる道で、これは通行のための道というよりも、何かたまり場としてうまく生かせるようなものとしてあるべきで、どうせここから行ってもずっと続いて歩いて行けるわけではないので、その生かし方としては本当にたまり場という感じなのかなと僕は感じております。

それで、シンボルロードを生かすためには、やっぱり小牧山まで行くのが距離感があるなという

ふうにどうしても思ってしまうんですけども、例えば犬山だと、犬山駅から犬山城って遠いですよね、意外と。だけど、途中が楽しいから歩いていく気になるということがあると思います。

だから、初めに大塚委員が言われたように、現図書館、旧児童館、あそこの結構広い土地がまだ生かされていないことを考えると、市の土地でもありますし、あそこに途中で、まずはあそこまで行ってみようという気になるような施設とか憩いの場、広場みたいなところがそこにあれば、近くにメナード美術館もありますし、非常に由緒あるお寺とか神社もありますし、そういったポイントポイントを行政が作っていくことによってシンボルロードが生かされて、人が来るようになると民間の力も使えるようになるんじゃないかと思うので、信長のシンボルロードをうまく生かす施策を行政も考えて、民間もタイアップしていくというふうになっていくといいかなと思っています。

【山下市長】

先ほどの意見を補足させていただきます。

加藤委員から、歩く道が決まっていないのかという話がありましたがそうではなくて、シンボルロードはシンボルロードで当然あるわけで、駅から小牧山動線ということでシンボルロードはあるんですけども、もう少し駅周辺の脇道、シンボルロードからすれば脇道になるわけですけど、商業集積とかにぎわいの創出という意味で、例えば新規出店への補助制度なんか持っていますけれども、一部の道に限られています、やはりどこにどう出店してもらおうとか、そういう広がりの部分で現状を見ていますと、山までの動線の中で、正直シンボルロード沿いに出店できるような状況はかなり限られているのが現状だと思います。そうした中で、やっぱり来た人が歩いて楽しめる駅前空間を作っていくという意味では、もう少し駅と駅東西の公園整備、そして図書館とラピオという施設が、もちろん周辺に幾つかの商業施設や飲食店がありますけれども、商店街ももちろんありますが、そうした中で、どこに決めるのがいいのか決めないほうがいいのかというのはありますが、周辺を歩いてもらう、あるいは来た人が魅力を感じてもらおうという中で、図書館とラピオだけではなくて、周辺に民間を含めて波及させていかなきゃいけないだろうという中で、先ほど生田先生からお話がかったように、前回のご意見の中でも脇道に入って何かあってもいいんじゃないかというご意見もありましたし、商業とか民間の部分での集積という意味では若干入らなきゃいけないのかなということも思います。

実は、新図書館の北側の歩専1号ですが、新図書館の設計上、この歩専1号のほうを実は向いている部分がありまして、歩専1号のほうに向かって、カフェが北側に面していたりとか、イベントスペース等も北側に面している造りになっています。だから歩専1号との一体的な利活用ということ想定しまして私も最初は南側かなと思ったんですが、設計者と話している中で、南側に向くと建物の中から見たときに暗い。北側に向くと、南から来る太陽の光が、例えば木なんかがあったら、見て明るいのは北側だという話がありまして、そうかと。これが正しいかどうか分かりませんが、歩専1号については、カフェとかイベントスペースは実は歩専1号に向かって配置しているのが図書館の設計につながっています。

ペDESTリアンデッキを撤去していますので駅からの動線が難しくなっているんですが、本当はペDESTリアンデッキを撤去した後に駅西線に横断歩道を設置したかったんですけど、公安協議で無理だということになりました。信号がすぐ南側にあり、次の交差点が、北側が駒止公園のところにあるので、この間は横断歩道はだめだということで、どうしても置けないようなので、本当は置きたかったというのが私としてはありますが、どうしても一旦シンボルロードに出てから、図書館

との関係で歩専1号をどう活用するのかということになっていくのかと思います。

駅西広場は、タクシー乗り場になっている南側については広場整備を予定したいと考えております。最近、国交省なんかの議論、私も出席して聞いておりますと、最近歩けるまちづくり、駅前の芝生化とか歩道化がかなり奨励されているなどというか、世界的なにぎわい創出とかまちづくりの流れの中で、全国的にはそういった事例が多くなっているように感じております。やっぱり歩いて楽しめる空間整備が重要だと思っておりますので、また皆さん方からいろいろとご示唆いただけるとありがたいと思います。

【名和委員】

今までの会話の論点が若干変わってしまいましたが、よろしいでしょうか。

冒頭に大塚先生がおっしゃられました、マンションに人が住もう、その住もう方々とまちのにぎわいは決してイコールじゃないよということをおっしゃられておりましたが、まさにそのとおりです。

実は私もこの周辺のマンションに一頃住んでいたことがございまして、そのマンションにおいても、実は町内会に入会されない方も多々おみえだったんですね。それはなぜかという、別に町内に世話にならんという言い分だったんです。しかしながら、そのまちでお祭りなんかがあると、積極的に親子で参加されておるんですね。それからいきますと、ある意味自分の価値観のみだけで動いていかれる方も一定数おみえなんだろうと。

そういったところからまちのにぎわいということに視点を移していきますと、そういった方々にどうやって価値観を見出していただいてまちへ引っ張り出すんだということを考えますと、トレンドは女子高生が作って、人はこどもに、親は子について出てくるわけですね。したがって、人という部分でいきますと、お子さんとか学校関係、そういった方々とさまざまな取り組みをやることによってもっと人や何かがまちに出てくるでしょうし、積極的にいろいろそういうことにかかわりや何かも出てくるんじゃないかなと思いました。

したがって、仕掛け人がどうのこうのということではなく、どうやってこどもとかその周りの方を引っ張り出すんだという視点もこの中には必要なのかなと思いましたので、発言させていただきました。

以上です。

【鶴田委員】

定住促進、マンションの話と、それからまちのにぎわいというのは、施策というか考え方は私も違うかなと思っています。

まず、左のGOOD、BADと書いたところの、まちのにぎわいにつながっていないって、これは前回の会議で私の申し上げたところですけども、このまちのにぎわいにつながっていないというのと定住を促進するというのは、2つあって、例えば、今岐阜の駅前に高層マンションができていますけど、そういうのをするとき、私もそのときにご意見差し上げたんですが、住みやすさ、暮らしやすさを書いてあるので、そういう場合は、住宅だけではなくて、例えば高齢者のデイサービスセンターであるとか保育園であるとか、そういうお住まいになる方が便利に暮らせるようなものも一緒に入れないと定住にはならないですよということで、今の高層の中にはデイサービスセンターとか保育園がミックスして入っています。

そういう意味でいうと、今お話あったような、まちに出ていくということを考えると、マンションの中にそれを作るというよりは、まちなかのすぐそばのところに例えば便利な保育園があるとかデイサービスセンターがあるとか、そこに住む方々の利便性というか住まいやすい、いろんなサービスできるものが例えばまちなかにあればそこが多分受け入れられると思うので、おのずと必然的にまちに出られるのではないかなと思うので、定住促進を図るときは、住宅だけじゃなくて、関連するものを一緒にセットでというのはセオリーだと思うので、それをまちなかの中に配置というかあれば、出てくるのかなと思います。

それから、前回に私も、まちの滞在率を長くするとか心象空間を短くするという事で、道路をどう作り込むかというか、つなげる動線をどうするのかということをお話し差し上げて、今日参考資料 12 をつけていただいて、彦根のデータが出ています。ここで注目したいのは、やっぱりハード面とソフト面ということで、例えば空き家のことであったりとかをミックスして施策を打っているということで、逆にいうと区画整理事業をやったりとか道路整備は、公共空間なので公共しかできないと逆に言えるので、市が先頭を切ってというか、やれるんじゃないかなと思います。

裏面を見ていただくと、こういう商店街がご懸念の景観も含めてこういうふうになったということです。道路拡幅であっても景観整備を含めてやればにぎわいは来るということですが、ただ、小牧と大きな条件の違いは、道路の長さがこちらは短いのでこれでいいんですけども、小牧の場合は、先ほどから話題になっているように、小牧城までの距離が非常に長いと思うんですね。

私は、先ほどあった、例えば今図書館があるところとか、ぼんぼんとでもネックになりそうなコアな部分があるので、私は1個じゃなくて、駅前の周辺、今の図書館があるところとか歴史的な資産があるところというふうにして、ポイントを1本の線で1個だけじゃなくて3つぐらいにしておいて、ここに来た人がばーっと動けるので流れていってこっちへ行くみたいな感じで多分ポイント1個では彦根みたいにはならないので、何かシンボルロード沿いに3つぐらい拠点というかそんなのを作っておいて、その拠点に来た人たちが歩きやすい道を歩きながら、シンボルロードを歩きながら町並みの拠点のほうまで行くことは当然あるかもしれないんですけど、そうやってしながら来訪者が本来はAという拠点に行きたかったんだけど、ちょっと歩いて行ってみたら楽しいとなったら、今度はBに行こうとかなるかもしれないので、拠点を1個にするのは小牧市さんの持っている空間的な条件からいくとちょっと厳しいのかなと思います。

以上です。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

今おっしゃった、拠点を3つぐらいという委員からのお話だったんですが、どんなカテゴリーの拠点とお考えでいらっしゃいますか。

【鶴田委員】

それは、それぞれの地域のポテンシャルによって変わってくるので例えば、駅前の今の新しい図書館の跡に造るものであれば、そういう要素のものだし、歴史的な資産があるところであればそういう要素のものになる。それは、それぞれ場所によって変わってくるので今ここで何拠点と私が言うものではなく、地域の人も含めて、ここはこういうエリア、シンボルロードの中でもここってこういうエリアだよ、ここってこういうエリアだよとか私詳しくわからないんですけど、例えば

ここに神社があるのであれば、歴史とか観光要素のもので、関連する設置とか休憩できる場所とか、あるいは観光案内所を置くとか、それは、場所というか、エリアが持つポテンシャルを最大限に生かすものを設定されればいいんじゃないかなと、ここで決められるものではないと思います。

【水野ファシリテーター】

今ある場所の特性によってということですね。ありがとうございました。

【生田委員】

図書館もできて、ラピオも整備されて、マックスバリュのスーパーもあるという条件は、子育て世代が来ないはずがないセットなんじゃないかなと思っていて。これにつけ足すとしたら、専門家というより一人の母親として感じることですけれども、広々とした公園とか芝生広場的なところがあると一日ここで過ごせるような感じがします。これは本当に個人的な感想です。

【山下市長】

前回も申し上げましたが、私も実はここで生まれ育ってしまして、公園というのは都市施設ですから都市計画区域内で、特に開発が進んでいるところに必要だと思うんですが、現状、公園整備、市内いろんなところでずっと毎年やっていますけれども、中心市街地にないんですよ。これは私も問題だと思ってまして。子育て世代などを、もちろん定住とにぎわいの議論がありますけれども、やはり一定の定住促進を当然ながら駅前にしていかなきゃいけないだろうということの中で、子育て世代が訪れたときにそれが必要だろうということがあって、それは私としても問題意識としては持っております。

小さな児童遊園は1つ2つある。公園というのは、今あるのは、駅前に駒止公園がありますけれども、シンボルロード、駅まで行く中で、実際この周りで、小さな児童遊園を除けば駒止しかないのかなと。

駅の西側のタクシー乗り場についてはまだ決定していませんけど、今は広場ということは申し上げていて、できれば芝生などを張りながら、休日などにはキッチンカーとか、商工会議所とも話をしていますが、にぎわい創出につながるような広場の利活用が歩専1号と併せてできるというなどを議論しています。特に図書館、ラピオより西側に行っても、学校とかはありますが、公園はない。新図書館、ラピオ、マックスバリュとセットになるような距離で広い芝生の公園とかが多少あれば、子育て世代としては非常に魅力的だなというのは、私もそう思います。

空間整備の中で1点だけ、先生方にいろいろとご示唆いただきたいなと思っているのは、シンボルロードについて、整備してから25、26年になり、歩いていただければわかりますが、道が、車がさらに通るものですから、両側はある程度広い歩道があって花壇が整備されています。

以前どこかの話の中で、やっぱりぶらぶらと歩くんだったら、要望としてはベンチがあったほうがいいんじゃないとか、いろいろと施設整備的な意見もあるし、景観の問題もやっぱりある。観光というか、そういうことについていえば、私が9年前に就任するまでは全く小牧は観光の「か」の字もなかった。観光振興計画も作り、観光協会も社団法人化をし、小牧山のこともあって、ようやく今観光ということについて商工会議所さん含めて盛り上がりをしてきているのかなというのがここ数年になります。

景観というのは非常に重要ですが、今まで観光的な要素がなかったものですから、景観整備とい

うのは町並みの整備であって、訪れて歩いて楽しめるような景観整備は全くやってこなかった。統一感もなかった。特にシンボルロード近辺で、景観とか施設の部分とか、歩いて楽しめるということからすると、ご意見どうかなということで、もしいただけるとありがたいなと思っております。何が足りないのか。

【大塚委員】

何が足りないかというよりも、私としては、この次のテーマになるのかなと思いますが、駅前から小牧山に向かうに当たって、駅前は、都市としての魅力みたいな新しい施設からなる近代的な景観です。それからさらに西に進み、ラピオを過ぎていくと、お寺がたくさんあるので、この景観を大事にし、そこを越えると交差点の先に神明社があり、徐々に歴史のまちというか、小牧山に近づいていくという雰囲気づくりができないか。小牧山への導入路としての雰囲気を景観として作っていく。現代の都市から徐々に歴史をさかのぼっていくような雰囲気が作れるのではないかというイメージは持っています。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

そのほか、委員の皆様からご意見ございませんでしょうか。

【鶴田委員】

やっぱり景観は非常に重要で特に、一応道路を整備されたということですけど、周辺の建築物については一切何もされていないということは、通りを歩いた人が周りの店にもっと入りやすい、見て入りたくなるみたいな仕掛けをしようと思うと、やっぱり建物まで踏み込まないと厳しいです。

観光地なんかですと、景観なりいろんな縛りをかけて、例えば塀は造らないとか、入りやすくするとか見やすくするとか、いろんなことをするんですけども、ただ一方で、景観の規制をかけるということは、沿道の方にそれだけのご負担をおかけすることになるので、その辺は沿道の居住者の方々、お店をやっている方々の合意を得る必要はありますけれども、やっぱりそれもやらないと道路だけで、全く沿道の建物には一切何もしないということであれば、あまり効果はないと思います。例えば、お休みする場所を造ると、お店で買ったおまんじゅうをそこに座って食べるとかいう行為が発生してくるので、やっぱり景観というか、沿道の建物についても何らか施策を考えたい方が効果的なのかなとは思いますが。

ただ、規制がかかってくることなので、沿道の方々の了解を得るというプロセスは、一緒になってやりましょうみたいなふうに、住民協働でやるというプロセスが発生するとは思いますが。

【山下市長】

今まで、そこまで踏み込んだ議論を小牧としてはしてこなかったんですね。過去には、例えばラピオ通り商店街のところだと、道から 20m ですが 1 階は商業じゃなきゃいけないとか規制がかかっていますけれども、シンボルロードにはかかっていないんですね。そういった規制がないということと、景観上の規制もないということで、それをどう考えるか議論が今まで不足しているのか、そういうふうな議論まで行き着かなかったということです。

最初は大塚先生もお話になったんですが、図書館の跡地の問題は重要ですけども、現状でいき

ますと同種の問題があって、都市計画審議会にもかかわっていただいていたと思うんですが、あそこはご存じのように第一種中高層住居専用地域になります。現図書館のあるところと昔の児童館の跡地は第一種中高層住居専用地域なので、基本的には観光施設的な部分は、土地利用の規制があるので、これを用途区分変更しないと難しいんじゃないかというところがあります。

ですから、本当に作れるもの以外で使おうとすれば、周辺の皆さん方にご理解をいただいて、先ほどの規制ということと似通って、ある意味用途区分を変更すれば、当然ながらそこだけというわけにいかないの、周りにも影響する。例えば地価の上昇とかいろんな部分で合意形成していかないといけないという部分もありますので、そこまでやるべきかどうかということ、やるべきだという話だとすると、こういった場で先生方からもいろいろとご意見いただきたいと思っています。

【大塚委員】

いずれにしても、重要な場所であるということは確かで、そこを何にするにしても、例えば今景観がという話がありましたが、それこそ観光集客的な施設ではないにしても、建物自体をその景観にマッチしたような、それこそ外壁なりフェンスなり、そういう雰囲気づくりに寄与するようなデザインにするという、最低限そういう配慮は必要かと思います。

【山下市長】

シンボルロードの位置づけですよ。

【大塚委員】

もう1つが、シンボルロードから小牧山城を目指す場合に、正面というか、本当にこっちから入っていけるんだろうかという不安を抱きながら歩いていったりするわけですね。だから、シンボルロードから小牧山城へのアクセスに際して、こちらから入っていけることがわかるような雰囲気というか景観づくりが必要かと思います。

【鶴田委員】

用途地域の変更はあまり賛成しない、というか特に緩やかなほうにシフトするものは、やはり地価とかいろんな影響が大きいので、私は、やるならば地区計画をうつ方がいいかなと思います。

地区計画の場合は、公共的な必要性や、逆にしっかりとしたまちにマッチングしたプランニングをするという限定的な条件の中で各種規制を緩やかにするということは当然コンセンサスとれると思う。例外的にこの場所だけをシンボルロードに合わせてプランニングするというのであれば、私は地区計画でいって、用途は変えずにいくというのがよろしいのではないかなと思います。

【生田委員】

規制という話となると、すごくハードルが高い話だなと思います。

その前に、例えば小牧山の眺望に対して寄与しているような影響を持つ建物、色彩として合わせることに何かインセンティブがあるなど色彩だけでも少し絞るなどの策もあるのかなと思います。

シンボルロードの写真をを見せていただいて、歩道の植樹帯とかを見ると、植樹帯自身が結構ばらばらな印象があり、これを1つの小牧山までをつなげるデザイン構造などをもう少し統一を持ってやっていくと、街灯とかもそうですね。それでも大分雰囲気変わるだろうなと思います。

あと、歴史の看板も、姫路城とかだと、本当に姫路城に向かって歩くんですけども、一步一步その場所に合わせた、ここは昔どんな場所だったんだよという解説の看板が置かれていて、姫路城に対してここはどういう街区だったということが認識できるような、その場その場に合わせた看板が置かれていくわけですけども、今ここの資料が全てだとすると、ここであるのは通り全体のマップが示されているだけで、この場所が何みたいな受けとめにはならないと思うので、そういうサイン戦略とか、あるいは街路表示みたいなもので小牧山まで、あるいは、名古屋にいと小牧と信長の関係がいかほどなものか伝わってこないところがあるので、途中にあるようなお寺が信長に何かつながりがあるような街路であれば、その情報も含めて打ち出せば、何となくそのような感じになってくるかもなという気はします。

【大塚委員】

鶴田先生に教えていただきたいのですが、彦根の場合、キャスルロードですと、拡幅と同時に地区計画をかけて町並みを作りました。小牧の場合は、シンボルロードができて 20 年になりますが、拡幅するときに合わせて地区計画というか、町並みを形成していこうという発想があればよかったんですが。今の段階になって地区計画でうまくやっていけるのか、そのあたりのことを教えていただければと思います。

【鶴田委員】

今の図書館があるところに限定した感じでお話ししたんですけど、あそこを例えば今でない用途、住居系でできないとおっしゃったので、そういうのであれば、ドイツの B プランと同じですね。大きなところがあって、その中で全体をプランニングしておいて、住居系じゃないところ、入れたところは別用途をかけるので、それは地区計画で緩和するという手法を思いついたということです。

ただ、地区計画の場合はいろんな使い方ができるので、別に拡幅と併せてなくてもいろんな使い方ができる。

先ほどイメージしたのは、そういうイメージです。市長さんから用途が違うのでとおっしゃったので。

【大塚委員】

図書館の跡地に限ってということですか。

【鶴田委員】

そういうことです。図書館の跡地について、例えばその中で通りに面するところに商業系、奥に住居系ということであれば、そういうふうに地区計画をプランニングすれば、ドイツの B プランのようにイメージしました。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

空間整備活用の件につきましては、あと 1 つで。ご意見を頂戴したいと思います。

【山下市長】

シンボルロードの駅から小牧山までの動線についての議論がかなり深まってきていると思っていますけれども、景観的な、あるいは歴史・観光的な要素を踏まえたプランニングはなされてこなかったんですね。

できて20数年という話がありましたけど、計画自体は40年以上ですね。シンボルロードの計画はあるんですけれども、駅から小牧山までがシンボルロードで、現図書館は住居専用地域で、その周りは基本的には閑静な住宅街なんですよ。シンボルロード沿いに景観と商業と、飲食含めて、シンボルロードを張りつけてにぎわい創出をしようという形の都市計画には現状はなっていないものですから。

私が最初に申し上げたのは、駅から図書館、ラピオ、このあたりのにぎわいと、小牧山って点と点なんですよ。これを線で結んでさらに面にと議論がいつもあるんですが、線になることに現状では非常に手をこまねいてきているということがあって。これは必要なんだとか、絶対やるべきだとか、やるにはどうしたらいいんだという議論が正直進まないという現状がどうしてもあります。だから、先ほど鶴田先生からは点・点・点と、拠点をつづぐらいという話もありましたけれど、駅から小牧山まで観光の方々はこちらから歩いていくという想定、あとは車で来た場合の想定と幾つかあるんですけれども、多分歩けるまちにしたいってにぎわいの方面からは思っているんですよ。点・点・点といくと、規制まではかけないほうがいいというか、かけるのはなかなか難しいんでしょうけれども私は商店街で生まれ育っていますので、非常に難しさをひしひしと痛感しています。ハードの行政でできることはできますけれども、なかなか統一的に民間のほうを誘導していくというのは非常に難しい。ですから、必要ならこういう規制をかけるべきで、こういう誘導をすべきだよというのがあるかもしれませんけれども、このお店についていえば、行政が買うということじゃなくて、どういう方法があるのかなというのが今までも悩んでまいりましたけれども、もしご示唆いただければありがたいです。

補助金で新しくお店を出すということについては、3年間出しています。なかなか難しい。

【鶴田委員】

周りがずーっと閑静な住宅地ということをお聞きして、一つ気をつけなきゃいけないなと思ったのは、観光でやっていくといったときに、やはり自分たちの住環境を侵されるというかそういう声も今でもやっぱりあるというところもあります。なので、その辺は市民の方というか、特にその沿道に住んでいる方々の合意を得ながらやっていかないといけないのかなというのが重要な点としてあるのかなと思います。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

それでは、時間も限られておりますので、次のカテゴリーについてご意見を頂戴したいと思います。

2つ目、資源、来街者、情報といった視点から、「誘客・集客」の課題についてご意見を頂戴したいと思います。よろしくお願いします。

【大塚委員】

今のお話の延長というか、ここへ来る人たちが何で来るのか、車で来る人が大半なのか、今後、鉄道を利用して来る人たちを中心に考えていくのかという、そこら辺をどう考えるかによっていろいろ考え方も変わってくると思います。現状ここへ訪れる人たちがどういう交通手段で来ているかというデータというか、現状はどうなのでしょう。

観光客が駅前に集まってみんなでそろそろ歩いていく姿は見かけられるのですが、そういう人たちのほうが多いのか、あるいは車で直接小牧山に来る方が多いのか、その辺の現状はどうなのでしょう。雰囲気でもいいですので、教えてください。

【加藤委員】

小牧山を目的とされる市外の方は、小牧山だけに来るんじゃないかと思います。

【大塚委員】

車で来てということですか。

【加藤委員】

はい。

小牧山の南側にもバス停がありますし、小牧駅から歩いて小牧山を目指す方は、ハイキングウォークとかそういうイベントじゃない限りあまり見かけないんじゃないかなと思います。

観光協会でもガイドをつけてやっていますけれども、ガイドをつけて小牧駅からいろいろ回りながら小牧山へ行くという、目的のあるようなガイドプランですと当然そうされるんですけども、小牧山という目指し方をすると、どうしてもそこだけしか行かないという感じなので公共交通機関を使っても、駅からまたバスに乗っちゃうのかもしれないなという感じがします。

【山下市長】

調査がないので私もわかりませんが、加藤委員がおっしゃったようなのが実情なのかなと思います。たまに観光バスも小牧山に着きますけれども、駅から小牧山まで歩いてということがないとすると。

今、小牧山の観光のための会議ではないというところもあるものですから、中心市街地の活性化、中心市街地のランドデザインということですが、活性化とか魅力とか開発意欲とか、そうすると今の話、小牧山の歴史ということでどうするのでも1つの視点ですけど、もう1つは、やっぱりまちづくりの人たち、にぎわい隊もそうですし、商工会議所もそうですし、小牧駅周辺のホテルに泊まった方の声を聞くと、一番多いのは、食べるところがない、飲むところがない、夜は暗いと、この声が非常に大きい。

小牧山までの動線とか観光の視点も大事だと思うんですが、もう1つの視点としては、駅周辺に飲食とかがあまりないというイメージがあって。何を目的に来るかというのは、にぎわいの定義をどうするのかというのはありますが、1つはやっぱりお店だったりとか、飲食だったりとか、そこで一定時間滞在をして、人が行き交って、行くと楽しいねという、人が集まっているからお店もさらに出るという好循環が回っていくような形だというのが、逆に回っている感じも今までありました。

市としては、図書館、未来館を中心に、このあたりで若い人たち、新しい人たちが来て図書館、未来館の中だけで、また車で帰っちゃうというのではなくて、外へ出て歩いていただけるような空間づくりと、民間にも出店をいただいて、いい波及効果がこれから生まれてきてほしいという期待の中で未来館は今年の9月、図書館が来年の3月ですので、次の一手をやっぱりきちっと打っていかなくちゃいけないだろうと思っています。

小牧山も大事ですけど、実は今一番我々の悩みどころは、図書館、未来館の後、食べるところとか飲むところという声が非常に大きい、あと買い物するところ。歩いて楽しめるとか、にぎわいというのは何なのかということもあるんですけども。山でそれができるとすれば、それはそれでもちろんいいんですが。

【大塚委員】

私が先ほど申し上げたのは、基本的にまちにどういう人たちが来るのかということで、1つは小牧に住んでいる人や小牧で働いている人にとっての中心というものと、あと、観光客が訪れるまちの入り口という、2つの側面を持っているのではないかと考えており、それらは分けて考えたほうが整理しやすいと思います。後者のほうの可能性はあるのかないのか。駅を利用して観光客はそもそも来ないという話であれば、そのことをあまり議論しても仕方ないし、あるいは電車で来るためにどうしたらいいかを考えないといけないし、そういうことで伺いました。

もう一方の、実際に住んでいる人にとっての中心市街地はどうあるべきかということは、こっちのほうが多分重要だと思います。これがベースにあつての観光だと思います。実際飲食店がないという話ですが、私もこの前調査のときに昼ご飯をどこで食べようかということで、飲食店マップを観光案内所でもらって探しましたが、なかなか困りました。

実はいろんなところの駅前では、今飲食店がどんどんできています。名古屋駅にしても、駅前の桜通りの北のほうにいっぱいできていますし、岐阜もそうです。駅前の玉宮通は岐阜で一番にぎやかで、夜になると人が集まるというのが岐阜の駅前であつたりとか。静岡の駅前も飲食店があり、今どこもかしこもそうですが、駅前といえば飲食店ができています。

じゃあどうして小牧にはできないのかというところになると、駅を利用する人たちがどういう人たちなのだろうか。駅の周辺には行政機関やオフィスとか、昼間働いている人たちがどのくらいいるのかというところで、そこら辺がもしかすると不足しているということかもしれません。ベースとしてのニーズがないから飲食店も成り立っていないのかと、そんな感じもしていますが、そうではないんでしょうか。

【生田委員】

私、親族が小牧市で働いているんですけど、その人がどういう通い方をしているかというのと、車か、金山からバスとか、結構な数の方が小牧市に働きに来ていると思うんですけども、小牧駅に行かずに帰れるのですよね。それが何かもったいないなと。やはりここに結構な数の企業が来ていて、その人たちが金曜日だけでも飲みに来るとかいう行動があると少しまた違うのではないかなと思うんですけども、本当にここを通過せずして帰ってしまうような行動になっている。何か方策がないのかなといつも思います。

【山下市長】

正直なところ、小牧駅は名鉄小牧線で、小牧でいうと幹線なんですよ。犬山まで行っている。南側は上飯田から平安通。以前は上飯田から平安通まで1 km 小牧市民はみんな歩いてたんですよ。ようやく平成 15 年につながりまして。でも、平成 18 年にピーチライナーが廃線になってというのがあって。

実は小牧線の利用客数はずっと上飯田連絡線開通以来伸びていまして、右肩上がりですと増加しています。沿線地域は区画整理も進んで、住宅、人口が張りついていっているんですけども、通勤・通学についていえば、名古屋との関係でいくとなかなか便利とは言えない。

というのは、東部のほうは春日井、高蔵寺、勝川方面で JR が金山、名古屋駅まで通っていますし、西のほうは岩倉とかそちらの方面で、名鉄犬山線 1 本で名古屋駅に 10 数分で行けますので、そっちに出られる方も多いということで、正直小牧の中で、小牧へ働きに来る人、小牧の市民がみんな小牧駅とか小牧線を使うかというとは実はそうではないというのが正直弱点という大きな部分なのかな。

来る理由が、そもそも小牧駅を使う人がそこまで多くなくて、小牧駅に来る必然性がないという状況の中で、中心市街地をどう活性化するんだということなので、来る理由を作らなきゃいけない。図書館と、再開発ビルも空けておくわけにいかないの、こども未来館ということで整備しています。目的をまず作るというのが今の状況です。ただ、それはそれで来る人は来るんですけど、来ない人は来ない。

ここに飲食を張りつけてというのは、卵と鶏みたいなもので、ただ、これを起爆剤にしながら張りつけていくと、徐々に雪だるまになっていくといいんですけどね。いい方策がないかという議論なんです。そのための全体のグランドデザインになっていきたいということで、やっぱりいろんな市民も、住んでいる方々も含めて議論していけば、当然公園はどうだとか規制はどうだ、景観はどうだという話もあるので、全体のデザインを描かないとなかなか行政として一歩踏み込めないということもあるので、このグランドデザイン戦略会議があるということです。

飲食がやっぱり一つのポイントかなと思っています。

【加藤委員】

飲食のことでいうと、小牧駅周辺に出店意欲はすごくあると感じています。にぎわい隊にも相談があったりするんですけども、一方、テナントとして貸したいという人たち、ところが少ない。前に飲食店をやっていたところが抜かれても、人気になってすぐそこは埋まってしまったりする。オーナーさんたちが貸したくないんですよ、夜遅くまで騒がれたり、衛生的によくないとかいういろんな負の面もあるので、もっとクリーンなところに貸したいとか、お金の心配がないところに貸したいとか、いろんなオーナーさんの都合もあって、今飲食をやっているテナント以外でまだあるとしたら、そこになかなか出店させていただけないというのが多い。もっといいところがあったらそっちに出たいのにと思っている飲食店の人たちはみえると思います。

飲食店に行きたいというニーズも現状の数よりはもっと多くて、特に流行る曜日とか時間帯だとは行っても行っても入れないということもあつたりするときもあるので、ニーズとのバランスはよくないと思うので、何とか貸していただけるところが増えるとか、飲食店に貸すとまた別の補助金がもらえとか。単純に空き店舗補助金じゃなくて、何か違うことで飲食店がしやすいような施策を打つとか何かしないことには、なかなか現状が改善できないかなと感じております。

【名和委員】

距離感の質問をさせていただきます。

大塚先生のお話に食いついたんですが、駅前が各地で飲食店とかいうふうに結構にぎわいを出しておるというお話ですが、小牧を思い浮かべますと、ラピオから西の旧商店街は1ブロック離れておるわけですね。各地の駅前のにぎわいや何かを考えていくと、その直前なのか、ブロックが多少離れておってもそこに人が集まってくるのか、その距離感について伺いたいと思います。

【大塚委員】

もう一度お願いしていいですか。

【名和委員】

距離感というのは、結局駅からラピオの西の飲食街が、仮に営業がしやすいであろう地域まで1ブロックあるわけですね。そこまで徒歩なり何なりで移動する。歩いても大した距離ではないですけれども、そこへ移動する時間と、あと、各地でにぎわっている駅前というのは駅前周辺、直前にすぐに行ける距離なのかどうかという、距離感について伺いたい。

【大塚委員】

駅直近じゃなくてもいいと思います。ということで、ラピオ周辺で十分だと思います。

というのと、各地で駅前が飲食店でにぎわっている光景を私はあまりよく思っていない。飲食店は結構すぐ入れ替わります。人が住まうところになれば、結果として飲食店も当然後でついてくるので、飲食店のにぎわいを目指してしまうというのはどうかと思っています。ちょっとつけ加えさせていただきました。

【名和委員】

飲食にかかわらず、いわゆる商業という、商業地域という視点で見た場合、要は駅前周辺というのはあまり商業の土地がないんです。ちょっと離れたところにはそういった土地なり活用できそうなところはありますが、あとは、図書館以外に核となる商業地域は、あの辺に可能なのかどうかというのはちょっと疑問だなと思います。

【山下市長】

やっぱり何にしても、物販にしても飲食にしてもそうですけど、ある程度の集積がないと、1店舗2店舗ぽつんぽつんとあっても、なかなかそこに足を運ばない。そういう意味では、先ほど来の話で、空間的にどこに可能性があるかということになると、なかなか。

ただ、面として考えたときに、先ほど加藤さんも言われたけど、もうちょっと市として方策を考えるべきかなとは思いました。ただ、飲食店を目的として開発するよりは、結果として人が来れば飲食店もできるということがありましたけど行政ができるのは、A街区に新図書館を造り、ラピオの再構築の中でこども未来館を造り、今まで来なかった人が少なくとも来ることは間違いない。ただ、そこに来た人が、車で来て駐車場にとめて、そこでそのまま帰ってしまうということでは寂しい。

目的としては、もちろん働きに来るとか、駅の乗降で通りかかるということもあると思うんです

けど、小牧山、図書館やラピオとか、点は、一応行政でかかわれるところは幾つか作ってきているという状況ですけど、あともちろん民間でメナード美術館とかいろいろとあります。

グランドデザインということですが、どっちの方向に議論が行くのかなということがあります。

【鶴田委員】

さっき岐阜の駅前の玉宮町の話が出ましたが、あそこは、平成の1桁だったと思いますけど、岐阜で初めてまちづくり協議会ができて、景観も含めて長い年月をかけたんですけど、結局ペDESTリアンデッキが駅前広場にできて、それで急激に多分集客が増えたと思います。

ただ、あそこ、昼間に行くと前日の夜のごみが落ちていて、夜ににぎわうまちであって、昼間はそんなに魅力的な通りにはなっていないんです。ただ、柳ヶ瀬まで行くのにちょっと距離があるので、玉宮町を歩いていくと、ほかの通りを歩くよりは、歩行者専用的になっていますので心象距離的には短くなりますが、夜のまちにするつもりがないのであれば、ちょっと注意が必要かなというのがあります。

さっき言い忘れちゃったんですけど、つながりをつなげていくという話でいくと、生田先生がおっしゃったみたいな看板というか、その場所場所のサインはすごくいいアイデアだなと思います。

多分悪循環になっているので、本当にお店を出してくれるのかという話があるので、鶏と卵どこから始めるかですけど、私はまず、とにかくあまりお金のかからないことで、サインとか増やして観光客が増えて歩く人が増えれば、そこで何か売ろうかなという人が出るかもしれない。もしも、いきなりじゃ怖いから、空き家とか空き店舗が出たら、市が介入してチャレンジショップ的にちょっとやってみたいとか、1カ月か2カ月やってもらって、そういうのを見てうまくいくなと思ったら皆さんやってくれるみたいな、少しずつ前に行けるストーリーを少し、お金のかからないとかやりやすい、市民の方にも負担がかからないようなやり方を、少しストーリーを組んで、やれることからやりながら。そうすると、歩く人が増えるために歩道とかをきちっと整備し、サインを作り、それで人が増えてきたらちょっとお店やろうかな、やったらあついいねみたいな感じでどんどん増えていくという好循環を生むようなストーリーを組む。どこから始めるかが、こういうのだって正解がないのですが、そういうストーリーを組むのがいいのかなと全体を聞いていて思いました。

【生田委員】

商工会議所とかにぎわい隊のほうでどのような努力をされているかあまりわからずの発言ですけども、よくほかの地域であるのは、最初はサンデーマーケット的なマーケットとして商業をする人が集うような機会を設けておいて、そこに例えば100人の1日何かを売りたいという人たちが集まってくるとすると、もしかしてそのうちの10人ぐらいはこのまちで出店したいかもという話になって、徐々にまちに定着していく力もつけたりとか、定着するきっかけを得たりするという話を聞くんですけども、それに付随するような活動とかは、そういうソフト的な活動はどんな感じですか。

【加藤委員】

にぎわい隊でいうと、城見市の中でクラフトショップみたいな、手作りのものとか自分で用意したものを試しに売っていただいて、それが本当に商売として成り立つのかというのを確かめてもらうような機会は持っています。その次のステップを今のところにぎわい隊として用意しているわけ

ではないですけども、入り口としてはそんなことを行っています。

今の地元の店の方でも、実際に閉めてしまった人、シャッターをおろしてしまっている人からいろいろ話を聞くんですけども、商店街にいてシャッターを閉めちゃっているのは申しわけないと、何かまちのにぎわいにお手伝いはしたいと思っている。その中で、チャレンジ的なことをやる人がみえるのなら、いろんな縛りはあるかもしれないけれども、自分のところの閉店してしまったお店を使ってもらうのも一つの手だと思っているという相談は僕も数件受けたことがあります。

それをうまく制度化しているわけじゃないですけども、市がやっている空き店舗補助金とは別の中で、もうちょっと柔軟性をもって、お試ししていただいたり、縛りがきつくない中で商店街に関与してもらえるとところが増えるようなことをにぎわい隊としても本当はすべきかなと思っています。

【生田委員】

にぎわい隊のみが活動を、というのは大変なことかとは思いますが、何か市としてマーケット的なところに来た人に対して、その後のサポートができるような、店舗を出店する人たちに対するサポートの継続という施策もあっていいのかなと思います。にぎわい隊がそれをできるような団体なのか仕組みなのでしょうか。人員の少ないところで頑張ってもらおうというのも難しいと思うので。

【大塚委員】

今のお話、もう少し詳しくお聞かせいただきたいのですが、城見市に出店されている方々はどういう方々ですか。そこへ買い物に来られる方はどういう方々なのか教えていただけますか。

【加藤委員】

出店されている方は、飲食の方もあつし、物販の方もあつしですけども、飲食の方は実際に店舗を持っている方はあまり多くなくて、キッチンカーをやっている方とか、そういうときだけ食事を提供したいといった方もみえます。

あとショップも、普通に売っているものを仕入れて売る方もみえれば、自分で手作りしたものを、どのくらい反応があるかを確かめたいという中で売っている方もみえるので、通常の城見市だと 20 店舗ぐらい、拡大版だと 40 店舗ぐらいの方で構成されている。でも、これ、月 1 でやっているだけなのでどれほど効果があるかよくわからないですし。

来場者もカウントしていますが、1,000 人から、拡大版で 3,000 人ぐらいですけども、恐らくそんなに遠方から来るわけじゃなくて、小牧市民の方がほとんどだろう。3 月にやるにぎわいフェスティバルだけはもっと大きく拡大してやるので、アンケートをとると、3 割ぐらい市外の方かなというアンケートになるんですけども、一般的な城見市はほとんど小牧市民が来られています。

【水野ファシリテーター】

そのほか、ご意見ございますか。

【山下市長】

商工会議所にしても、にぎわい隊さんにしても非常にご努力いただいているんですけど、飲食、

物販についていえば、出店意欲はあるんですけど、店舗がないんですよね、出店場所がない、確保が難しいというのが現実です。

昔、あそこは商店街、本当に狭い道の中で、昔七夕まつりもやったような、両側に店があつてというのがずっと、下之町から中町、横町行って、上之町までずっとつながって、もちろん駅のほうまでつながっていたんですけど、今の小牧駅は、以前の小牧駅より 500m ぐらい東に移って新しくできたのが、昭和 56 年に竣工をやりましたので、40 年近くそれこそ私がこどものころです。

今見ていますと、新図書館、こども未来館、マックスバリュという組み合わせがあつたら子育て世代が来るんじゃないかと生田先生がおっしゃたんですけど、マックスバリュのところもずっとできて結局、黒壁スクエアみたいなところにやるといったときに、私としては本気でこれやってみようと思ったら、不動産管理とかそこら辺まで踏み込まないと、貸してくれるほうの開拓も含めて、やっぱり空き店舗の管理、この仲介まで本気でやらないとなかなか難しいなということは思っているんですが、そこまで正直踏み込めずに来てしまっております。

ただ、その以前に、なかなかそういった店舗の想定できるようなところがなくマックスバリュも、具体的な名前を出して申しわけないですが、あそこの一角も実はずっと北側と西側も店舗が一応あつたんですけど、今ずっと駐車場になってきているものですから、実際のポテンシャル的に、どこを商店街的な。

ラピオのほうも、外側が壁ですから、両側がというところになると相当、どこを軸にしたらいいのかというところが、軸が張りにくいというか、そういう現状に実は小牧駅の周辺の商店街が崩れてきているということの中で、なかなか難しいなというのが悩みどころ。

ただ、やっぱり本気で意向があるとすれば、不動産の仲介のところまで踏み込まないと、なかなか飲食、物販も含めて確保は難しいかなと思います。黒壁スクエアとかあのあたり、実際にそこまでやられていると承知していますけど、商店街とか再生というのは難しいのかなと思っています。

アーケード的な、車が通らなくて歩いて、両側に店舗が張りついて一定の集積がないとなかなか来ないのかなという感じがしています。

【大塚委員】

都市のスポンジ化への対策として、国も新しい制度を作ったりしています。私あまり詳しくないのですが、要は、あちこちに空き店舗とか空き家があつたりして、それをうまく整備し権利関係を調整しながら市街地を作り替えていくような制度が多分できていると思います。そういう制度をうまく使って、少し空いた土地とか空き家とかを活用しながら、そういうスペースを作っていくことも検討の余地があるのではないかなと思います。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

それでは、時間も押していますので、次のカテゴリについてご意見を頂戴したいと思います。

商業、ヒトといった視点から、「ヒトづくり・合意形成」の課題についてご意見を頂戴したいと思います。よろしくお願いします。

【大塚委員】

人づくりということで、実際ににぎわい隊でやられている加藤委員にお聞きしたいのですが、今

やられているメンバーの方々はどういう方で、担い手として何か困ってみえることとか、現場の抱えている人づくりというか組織づくりの課題みたいなのがあればお聞かせいただきたいです。

【加藤委員】

にぎわい隊の会長、副会長は、3つある商店街の代表者がやっています。私はその代表者ではないので、理事としてやっていますけれども、その3人の中には僕は入っていない。

ほかには、イベントをやりたい人たちとかまちづくりに興味のある方、全部ウエルカムですよという中で協議体を作ってやっているわけなので、人の入れ替わりもやっぱり必要だとは思うんですよ、新しい人たち。なるべく自分たちの夢をまちの中で実現したいという人たちにできるだけ多く参加していただいて、一緒に議論して一緒に汗を流そうというのが基本的なもので、どこかから選出されてくるわけじゃない。会費もいただいていないですし、自由にやっております。

行政からかなり補助金をいただいて運営しているわけで、事務局員が2人いるんですけれども、その人件費は行政からの補助金で成り立っております。広報費とか、運営に関するお金も、行政、あと商工会議所からもお金をいただいてやっていますので、非常にお金に限りがあるし、我々はボランティアで手弁当でやるということで人件費プラスちょっとした費用しか人に対しては払えられない余裕はない。

我々は、会計の問題もあって、イベントをしていろんな利益をにぎわいとして積み上げていくわけにいかないような会計システムになってしまっているんで、余ったら返しますよという補助金のシステムの中で、単年度でやりたいことは解決していかないと、我々の資金としての積み上げはできない状況になっているので、そこら辺が毎年予算の時期になると苦しいなと思っているところがあります。

【大塚委員】

商店街の連合組織みたいに、商業者が担い手になっているということでもないのですか。非商業者の方もいるのですか。

【加藤委員】

会長、副会長は3つある商店街から出てきた人ですけれども、ほかのメンバーとしては、会社組織から出てきた人もいれば、例えば踊りの団体だとか音楽の団体だとか、そういう方も出てきている。全く商業体じゃないところからも出てきているところが、わーっと一緒になって会議をしている。個人もいます。何でもウエルカムに今なっている。

【大塚委員】

それが一番重要だと思います。商業者だけ集まってやってもあまり発展しないので、非商業者がどれだけまちづくりにかかわるかというのが重要です。

【加藤委員】

それが大事。発足のときからそういうことで。初めに商工会議所と市で音頭をとって、こういうのを作りたいよねということで、いろんなところに声をかけて作ったわけで、そこからどんどん派生的にいろんな人が集まってきているということです。

【山下市長】

かなり緩い感じで、ウエルカムですね。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

そのほか、ご意見ございますか。

【大塚委員】

私もほかでそういう組織をお手伝いしていたことがあるのですが、途中で自然消滅させてしまいました。それを継続させていくのは結構大変だと思いますが、もうどのぐらいやられているのかわかりませんが、継続してやられているわけですか。

【加藤委員】

はい。結構、10年ぐらいはたっていると思います。

1つは、ありがたいことですけれども、行政からの補助金が初めからずっと得られているということで継続できる。全部初めから持ち出してやっていけばこんなふうにはならなかったと思う。事務局を雇うことができ、事務局機能がちゃんとしっかりしているというのは、やっぱり続けられる1つの要因ではあるかなということと、代表者の人たちの思いをみんなわかってやっている部分がある。にぎわい隊だけのつながり、知り合いじゃなくて、もともと多面的につき合いがあってここに集まってきているということもあって、思いをわかり合っているから続けられるのかなと思っています。

【山下市長】

にぎわい隊さんは、毎月城見市を開催いただいて。あれ、年に一回大きなイベントが2月か3月ぐらいにやられている。かなり大きな集客があります。イベントのときは相当来られるということがあります。ただ、それが普段のにぎわいということにどこまで寄与しているのか、わからないところがあるんですけれども。

ここが中心市街地で、盛り上げていかなきゃいけないという思いはやっぱりあるということですよ。にぎわい隊さんの活動もそうですし、そういったことでイベントをやってもいいよと言っていただける、参加いただけるということは、何とかここを盛り上げていこうという思いは市民の皆さん方の中にもかなりある。

我々毎年アンケートをとっていますけど、やっぱり中心市街地が寂しいと、何とか中心市街地を活性化していかなきゃいけない。中心市街地の状況は、やっぱりちょっと今のままではよくないよねという意見がかなり多いのは間違いない。これは、別に駅前に住んでいるとか商売をやっている方だけじゃなくて、市内全域の中で、中心市街地の施策についてはもうちょっと何とかしなきゃいけないねというのは全域的にいただいている状況がありますので、そういう意味では市民全体が、一定の皆さん方が何とかしてほしいよと、活性化してほしいよという思いはやっぱりあるということなんですよね。

【大塚委員】

城見市に来られているお客さんの年齢層とかはどうですか。要は、この新しい図書館なりこども未来館とか、そういうところに来る人たちとはまた違う層になるのか。相乗効果が得られるのか。

【加藤委員】

こども連れはある程度います。僕らもいつも、もうちょっと10代、20代が欲しいよねとは言っています。そこら辺はやっぱりなかなか来ていただきにくいのかなと思っています。

30代、40代の子育て世代が、こどもを連れた親、もう一つ上の世代ぐらいが、そういうところで物を買いたいとか、ステージを見たいというのもそこら辺なのかなと思うんですけども、我々はやっぱり10代、20代も来ていただけるものにしたいなとは思っております。

ただ、にぎわい隊というのは、イベントをするためにできた団体では本当はなくて、城見市は初めからあったわけじゃないです。空き店舗対策の中で、いろんなアドバイスができるとか、いろんな情報発信をしたりするとか、そういう中でこの小牧を何とかしたいなという人たちの集まりで。

【山下市長】

まちバルもやっていた。

【加藤委員】

そうですね。チケットを買ってもらって飲食店を回るとか。今やっているのは、「うまいたうん」というお店を紹介する雑誌を作るとか、中心市街地だけに配るタウン誌を作るとか。情報発信をいっぱいしなきゃいけないと思っているので、そういうことをやりながら、軽トラ市みたいなのをやったらどうかということで、後からイベントを始めて、初めは100人も来ないようなイベントから始めて、今の状態があるということです。

【山下市長】

今は何人ぐらいですか。

【加藤委員】

普通にやるので1,000人ぐらい、拡大版だと2,000、3,000人、にぎわいフェスティバルだともっと来ます。にぎわいフェスティバルは、ラピオ通り商店街とシンボルロードをずっと使いますので、ここはもっと多い。あまりにも広いのでカウントはしないですけど、5,000人ぐらい来ているんじゃないかなと思います。アンケートの紙はすぐなくなっちゃうから、そのぐらいは来ているのかなと思っています。

【名和委員】

先ほどから、店舗をやるにしてもそのキャパシティがないというお話なんかもありまして、イベントをやればまた人は集まるよということも見込めるわけですよね。そうなってくると、店舗のないところに店舗を出すにはどうしたらいいという考え方をするのであれば、移動販売、マルシェや何かが一定のコアなファンが多分いると思うんですよね。

どこでもマルシェを開催すると非常に多くの方が集まってくる。であれば、にぎわい広場を今度

図書館前に作られる予定、そこでもマルシェを展開されるようなことを前に伺ったことがあるんですが、それをまち全体で、毎日は無理なのかもしれないですけども、不定期なのか定期的なのかはわかりませんが、道とか空いている土地とかでマルシェや何かで移動販売とか、そういった盛り上げるための展開をしてもいいのかなとふと思いました。

ただ、それをどういったところに取りまとめるのか。例えば、家族でやっているようなやつでやったり、こまき市民活動ネットワークですとか。ただ、各 NPO それぞれ運営に疲弊しておりますので、どこにお願いをするのかという問題はありますが、そういった取りまとめをやりながら、移動販売なんかを上手に活用することも活性化につながるのかなと思いましたので、意見を言わせていただきました。

【山下市長】

逆に先生方に伺いたいんですけど、例えば日曜日、マルシェとかにぎわいのためのイベントをやって集客をしていくことは、日常の店舗の出店とか日常のにぎわいにつながっていくような要素はあるんでしょうか。あるいは、そういった仕掛けを何らかもう少し工夫すればそういったものにつながっていくんでしょうか。

【生田委員】

参考資料 12 の後ろのほう、再開発を契機に元気をつける商店街づくり、岐阜県岐阜市というところ。ここに書いてあるソフト面というところ、SUNDAY BUILDING MARKET とか柳ぶら楽市とか、いわゆるマーケット系のソフト面があって、そのときに、やながせ倉庫とかカンダマチノートは、そこら辺にあった古いビルを 1 棟丸ごとですけど、従来の商店とは比較にならないぐらい小さな区画で店舗に貸すことを行っています。

マーケットで気軽に出てきていた人が、やながせ倉庫など、小さなスペースなので借りる賃料が安くて、人によっては毎日営業しているわけではなくて、マーケット的に日曜日だけ出店している人もいるぐらいの賃料の設定がされていて、大きな店で毎日営業しなければならないとなると、ハードルが高い人たちにとって、柳ヶ瀬では小さい店舗形式を用意している。民間の方がやっている活動ですけども。

聞くとところによると、100 店マーケットが来ると、そこから 1 割ぐらいの人がこれに入ったり出たり入ったり出たりみたいなことをして、定着していけるところはさらにステップアップしてもうちょっと大きい店舗にいくし、定着できずに去っていく店舗もあるという話は聞きましたけれども、マーケットに出店する人たちは、何らか来ている土地に対してシンパシーを持ったりとか親しみを持ってきているので、まちに出店するきっかけにはなるのかなと。

もうちょっと詳しくは、ここに直接聞かれるといいかなと思います。

【山下市長】

100 店というのは、何を 100 店来たら 1 割がということですか。

【生田委員】

SUNDAY BUILDING MARKET というのが毎月 1 回あって、そこから。

【山下市長】

1割ぐらいが出店されるということですか。

【生田委員】

1割ぐらいというか、どうだろうな。

【山下市長】

割合はいいんですけど、小さい区画の出店につながる、そこにつながるということですか。

【生田委員】

そこにつながると言っていました。

でもやや個性があるマーケットなんだと思うんです、恐らく。ある特定の人たちに人気のマーケットで、若い人でしょうね。マーケットに来ている人たちが出店したいなというときに、あそこだったら気軽に始められるよというステップがあるということで、もしかしたら一歩踏み出せるかもという状況が柳ヶ瀬では作られている。

【山下市長】

今の話、非常に興味深い話です。

商店街、私もいろんなことを調べたんですけど、例えば靴なら靴とか、ある種の洋服だとか、3店舗ぐらいは商店街の中で買い回りができないと、1店舗だけだと来ないという話も聞いたことがあるんですけど、今のお話の中で、何らかの軸があって、こういう方面のものが何店舗か連なっていると、そこに一定の集客があるということなんだろうなと思いながら、非常に参考になる事例かなと思いました。大須の商店街もそうですけど、やっぱり古着だとか、何かのテーマ性というか、軸がやっぱり必要なのかなと感じました。

【水野ファシリテーター】

ご意見ありがとうございました。

予定の時間も大分迫ってまいりましたが、特にこれだけは言っておきたいというご意見がございましたら、あと1つお願いします。

【大塚委員】

今の話で、城見市というのは軽トラ市ですね。それだと、そっちのほうで固定した店舗を持たないので経営的にいいのかもわからないので、店を持ちたいと思っている人は少ないのかもしれない。

あとは、来た人に対して、既存の店舗がどういうスタンスでいるのか。よそのところだと、仏壇屋さんとはあまり関係ないのですが、そういう市の日には店頭で数珠みたいな小物を並べて売ったりという、市を自店の商売に生かそうという人たちが商店街にどれだけいるのかということかと思います。

感想みたいですが、以上です。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

それでは、予定の時間も参りましたので、議題（２）の中心市街地の課題については以上にて閉じさせていただきたいと存じます。

続きまして、議題（３）その他を議題といたします。初めに事務局よりお願いいたします。

【事務局】

事務局からは１点、次回の会議についてでございます。

次回の開催につきましては、４月から５月に予定させていただきたいと考えております。改めて日程の調整をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

そのほか、委員から何かございますでしょうか。

【山下市長】

どうもありがとうございました。

２時間という短い時間の中で、議論が随分、いろんなポイントがあつて、たくさんだったかなということを思いますけれども、それぞれ貴重なご意見をいただいたと思っております。

議論を整理いたしまして、次回に向けて、ポイントをもう少し整理させていただく中でつなげていきたいと思っております。

この戦略会議、毎回全くシナリオなしで、専門家の皆様やそれぞれのお立場の皆さん方をお招きして、最終的な責任者の市長も入って車座で、しかも公開で勝手な話をする会は全国的に例がないと思っておりますが、本当にいろんなことについて知見をいただきながら、決して何かを決めていくという会ではないですが、いろんな議論の中でいろんなヒントをいただきながら、市政に入れていきたいという中で進めさせていただいております。

実は私、忘れておりましたけど、戦略会議、幾つか今まで、産業立地とか高齢者福祉医療とか自治体経営とかいろいろやってきたんですけど、市の代表は、私はもちろん市長なんですけれども、本当はいつも担当部長がここに入っていたんですよ。市の行政のほうは行政のほうでいて、私は市民の代表であり行政の責任者としていたので、行政サイドももうちょっと入ってもらわないといけないかなと思いますけど、これは後でまた考えますけれども、また４月５月に向けて、どういうこの後進め方で、どこのポイントが大事だよとか、こういう進め方をしていったほうがいいのかということも、もしそういったお話があれば、それぞれの委員の皆様方からまた事務局を通じて御意見いただければと思います。

今日、ここで終わるんですけども、その後のということについて十分にまた皆さん方と共有ができていない部分もあるかもしれませんので、ご意見いただければ、また次回の会につなげていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思っております。

ありがとうございました。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

以上で、本日予定しておりました議題につきましては全て終了しました。

事務局に進行をお返ししたいと思います。

円滑な会議進行にご協力いただきましてありがとうございました。

【都市政策部次長】

長時間にわたりまして、委員の皆様には、ご議論をいただき誠にありがとうございました。

本日の会議録でございますが、事務局で作成させていただきましたら、委員の皆様にご確認をしていただきたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

それでは、これをもちまして第2回中心市街地グランドデザイン戦略会議を閉会させていただきます。

誠にありがとうございました。